

混同されることの多い病気

■病気の原因は何か？

国が違ったり、経歴が違ったりすると、病気の原因を説明するのも様々である。

乳児が下痢をしている。なぜか？

小さな村の人々は、両親が何か悪いことをしたからだとか、神霊の怒りを買うようなことをしたからだ、などと言うかもしれない。

医者は、その子どもは何かの感染症にかかっているからだ、と言うかもしれない。

公衆衛生官は、村によい水系がなく、村人が便所を使用していないからだ、と言うかもしれない。

社会改革論者は、子どもたちがたびたび下痢を起こすような不健康な状況は、土地や富の不公正な配分のせいである、と主張するかもしれない。

教員は、教育の欠如を責めるかもしれない。



人は病気の原因について、自分自身の経験と視点から考えを述べる。ではこの場合、原因について誰の言うことが正しいのか？ おそらく、みんなが正しい。あるいは、みんなが少しずつ正しい。

これは、病気は一般に、さまざまな原因が重なって起こるものだからである。



ぼうや、どうしてなの？

上で示唆された原因はどれも、なぜ子どもは下痢を起こすか、という理由の一部である。

病気をうまく予防したり、治療したりするには、自分の地域の一般的な病気のことと、原因となる要因の組み合わせについて、できるだけ十分に理解することが助けになる。

この本では、もっぱら、現代医学または科学的医学の体系と用語を用いて、さまざまな病気について検討している。

この本を使いこなすために、また、推奨薬を安全に使うために、病気とその原因についての医学に基づいた理解はどうしても必要である。それには、この章を読むことが役に立つだろう。

■さまざまな病気とその原因

さまざまな病気の予防法や治療法を考えると、感染する病気か感染しない病気か、という2つのグループに分けて考えるのが役に立つ。

感染する病気は、人から人へと広がっていくような病気である。健康な人に病気がうつらないよう、病気になった人（感染者）から守らなければならない。

感染しない病気は、人から人へはうつらない。発症は別に原因がある。だから、どの病気が感染し、どれが感染しないかを知ることが重要である。

■非感染症

非感染症にはたくさんの原因がある。しかし、それらは病原菌、細菌、その他の、体を攻撃する生物が原因であることは決してない。人から人へは決してうつらない。**抗生物質**という病原菌とたたかう薬は (p.55 を参照)、非感染症の治療には役立たないのである。このことを理解することは重要である。

心にとめておこう：抗生物質は非感染症には無効である。

非感染症の例

<p>体の中で何かが消耗したり、正しく機能しなかったりして起こる病気</p> <p>リウマチ、心臓病の発作、てんかんの発作、脳卒中、偏頭痛、白内障、がん。</p>	<p>外部から何かが体を傷ついたり、苦しめたりして起こる病気</p> <p>アレルギー、喘息、中毒、ヘビのかみ傷、喫煙による咳、胃潰瘍、アルコール依存。</p>	<p>体に必要な要素が欠乏することによって起こる病気</p> <p>栄養失調、貧血、ペラグラ、夜盲症と眼球乾燥症、甲状腺腫とクレチン病、肝硬変（原因の一部）。</p>
<p>先天性の病気</p> <p>兔唇、内斜視または外斜視（やぶにらみ）、その他の変形、てんかん（ある種の）、精神発育の遅れている（後退している）子ども、出産斑。</p>	<p>心の中で始まる病気（精神的な<病気>）</p> <p>ありもしない何かが危害を加えるという恐怖（パラノイア）、神経性の不安（不安神経症）、まじない信仰（妖術）、抑えられない恐れ（ヒステリー）。</p>	

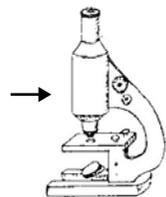
■感染症

感染症は、病原菌および体に危害を加える**生物**（生きているもの）によって引き起こされる。それらはさまざまな広がり方をする。ここでは感染症の原因となる生物のうち、最も重要ないくつかと、それによって起こる病気の例を示す。

感染症の例

病気の原因となる生物	病気の名称	広がり方と体内への侵入の仕方	主要な薬
細菌(微生物または病原菌)	結核	空気を通じて(咳)	それぞれの細菌感染に対して、それぞれ別の抗生物質
	破傷風	不潔な傷	
	ある種の下痢	不潔な指、水、ハエ	
	肺炎(ある種の)	空気を通じて(咳)	
	淋病、クラミジア、梅毒	セックス	
	耳痛	風邪をひいたとき	
	感染創	不潔なものとの接触	
	化膿した傷	直接接触(手で触る)	
ウイルス(細菌より小さな病原体)	風邪、インフルエンザ、はしか、おたふくかぜ、水痘、小児麻痺、ウイルス性の下痢	病気の人から、空気を通じて、咳、ハエなど	アスピリン Aspirin および他の鎮痛薬。(ウイルスを効果的に殺す薬はない。抗生物質は無効である。)いくつかのウイルス感染を予防するワクチンはある。
	狂犬病	動物がかむ	
	いぼ	接触	
	HIV	感染者の体液の侵入	
真菌類	白癬、水虫(表皮糸状菌症)、たむし	接触または衣類から	硫黄と食酢の軟膏。ウンデシレン酸、安息香酸、サリチル酸、グリセオフルビン Griseofulvin
内部寄生虫(体内に住む有害な生物)	腸内: 寄生虫、アメーバ(赤痢)	口に排泄物が入る(糞口感染)、清潔の意識の欠如	それぞれに対する特效薬
	血中: マラリア	蚊にさされる	クロロキン Chloroquine (または他のマラリア治療薬)
外部寄生虫(体表に住む有害な生物)	シラミ、ノミ、トコジラミ、疥癬	感染者またはその衣類との接触	殺虫剤、リンデン Lindane

細菌は、感染の原因となるたくさんの生物と同じように、非常に小さいので、顕微鏡を使わなければ見ることができない。顕微鏡というのはこの図のような機械で、小さなものを、もっとずっと大きいように見せるものである。ウイルスは、細菌よりさらに小さい。



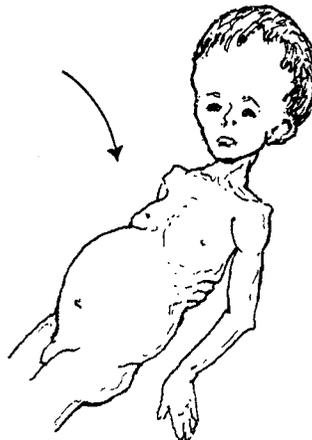
抗生物質(ペニシリン Penicillin、テトラサイクリン Tetracycline など)は、細菌によって起こるある種の病気を治療するのに役立つ。**抗生物質は、ウイルスが原因のほとんどの病気に対して、まったく効果がない。**たとえば、風邪、インフルエンザ、おたふくかぜ、水痘などには無効である。**ウイルス感染の治療に抗生物質を用いてはならない。**役に立たないばかりか有害である(p.55の抗生物質の項を参照)。

■区別するのが難しい病気

原因が違い、違った手当てを必要とするのに、そっくりの病気に見えることが時々ある。たとえば次のような場合である。

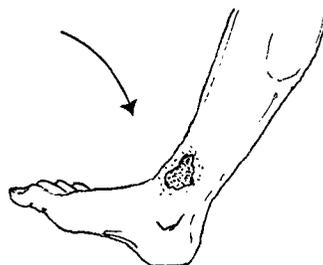
1. 徐々にやせて衰弱していく子どもの腹が、どんどん膨れていく場合は、次の問題のどれか（いくつか）が起こっているはずである。

- 栄養失調 (p.112 を参照)
- 回虫がたくさんいる (p.140 を参照)
(通常、栄養失調を伴っている。)
- 進行した結核 (p.179)
- 慢性の重い尿路感染症 (p.234)
- 肝臓または脾臓の病気のうちどれか
- 白血病 (血液のがん)



2. 足首に大きくて開放性の、ゆっくり広がるただれのあ
る高齢者では、次のことが考えられる。

- 静脈瘤または他の原因による血行不良 (p.213)
- 糖尿病 (p.127)
- 骨の感染 (骨髄炎)
- ハンセン病 (p.191)
- 皮膚の結核 (p.212)
- 進行した梅毒 (p.237)



これらの病気に対する手当ての仕方はそれぞれ違う。だから、正しい手当てをするためには、病気を判別することが重要である。

初めはそっくりに見える病気は多い。しかし、あなたが適切な質問をして、何を知るべきかわかっていれば、情報を得ることができ、その人が何の病気なのか判断する助けになる症状をつかむことができる。

この本では、たくさんの病気について、典型的な病気の経過と症状が説明してある。しかし、注意してほしい！病気はいつも症状どおりに表れるとは限らない。紛らわしい症状もあるだろう。難しい症例の場合は、経験をつんだ保健ワーカーや医師の助けが必要なが多い。ときには、特別な検査や分析が必要になる。

自分の能力の範囲内で仕事をする事。
この本を用いるにあたり忘れないでほしいのは、
私たちは簡単に誤りを犯す、ということである。
知らないのに知っているふりをしては、絶対にいけない。
ある病気が何であるのか、
どのように手当てすべきなのかということに確信が持てない場合や、
その病気が非常に重い場合は、医療従事者の助けを得ること。

混同されていたり、同じ名前がつけられていたりすることの多い病気

人々が病気に用いている一般名は、病原菌や細菌のことや、それとたたかう薬のことをみながるよりずっと昔に使われ始めた。違う病気であっても、〈高熱〉とかくわき腹の痛み〉といった、多かれ少なかれ似た問題を生じた病気は、一種類の名前がつけられることが多かった。世界中で、こういった一般名は、今でも使われている。都会で訓練を受けた医者が、これらの名前を知らなかったり使わなかったりする、ということはよくある。そのため人々が、自分たちの病気は〈医者に治してもらえない病気〉なのだと思えることもある。それで人々は、この**家庭病**にたいして、薬草や民間療法をほどこす。

実際にはこれらの家庭病や〈郷土病〉の大部分は、医学的に知られている病気と同一である。違うのは病名だけである。

民間薬がよく効く病気はたくさんある。しかし、現代医薬で治療するほうがより効果があり、生命が助かる病気もある。ことに、肺炎や腸チフスや結核や出産後の感染といった危険な感染症などである。

明らかに現代医薬が必要な病気は何かということを知るために、また、何の薬を用いるべきかを判断するためには、**訓練を受けた保健ワーカーやこの本が用いている病気を知らうとすることが重要**である。

探している病気がこの本の中に見つからない場合は、
同じような問題について扱っている章の中で、
違う病名から引いてみる。
目次の項目と索引を用いること。

その病気が何であるのか自信がない場合、とりわけ症状が重く見える場合は、医学的助けを得るよう試みること。

この章の残りの部分では、さまざまな病気に対して人々が用いている一般的あるいは**伝統的**病名の例を示す。一つの病名が、医学的に言えば異なる病気に対して付けられていることが多い。

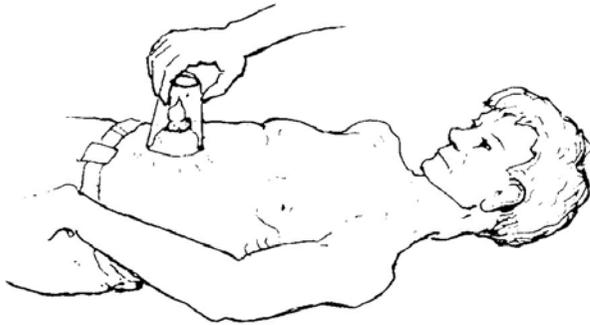
この本が使われると予想されるすべての国や地域での名前を取り上げることはできない。従ってここでは、この本のスペイン語版に依って、西メキシコの村人たちの間で用いられている名前をとりあげる。自分の地域で用いているのと違う名前もあるだろう。とはいえ、世界中で、人々はこれと同じような方法で自分たちの病気を眺め、語っている。だから、これらの例は、自分の地域で人々は病気に対してどのように名前をつけるものなのか、を考えるのに役立つだろう。

以下に挙げる〈郷土病〉について、自分の地域の人々の呼び名を思い出せるだろうか？可能な場合は、スペイン語の病名欄の後の〈地域の病名〉欄に、その病名を記入しておこう。

地域の病名： _____

■病気に対する地域的呼び名の例

スペイン語の病名：エンパチョ（腸のかん入）



地域の病名：_____

医学用語のかん入は、腸が詰まること、すなわち腸閉塞を意味する（p.94を参照）。しかし、メキシコの村々では、胃病や下痢を起こす病気は何でもエンパチョという。毛の固まりか何かが腸の一部をふさいでいる、とされている。人々は、魔女または悪霊のせいだと言って、魔術的な治療やコップ法（図を参照）で手当てをする。民間治療をする人が、吸引に

よって腹から毛玉やいばらを取り出したふりをすることもある。

胃の痛みや不快感を起こしエンパチョと呼ばれている病気は色々で、次のようなものがある。

- 差し込むような腹痛を伴った下痢または赤痢（p.153）。
- 寄生虫（p.140）。
- 栄養失調による膨れた腹部（p.112）。
- 消化不良または胃潰瘍（p.128）。
- まれに、真正の腸閉塞または虫垂炎（p.94）。

これらの病気のひとつは、まじない療法やコップ法では効果がない。エンパチョを治療するには、それが何の病気であるのかを見極め、その原因への対処を試みる。

スペイン語の病名：ドロール デ イハール（わき腹の痛み） 地域の病名：_____

この名称は、女性が腹の片側を痛がる場合すべてに対して用いられる。痛みが背中中の中央や下部に回りこむことがよくある。この種の痛みの原因としては、次のものが考えられる。

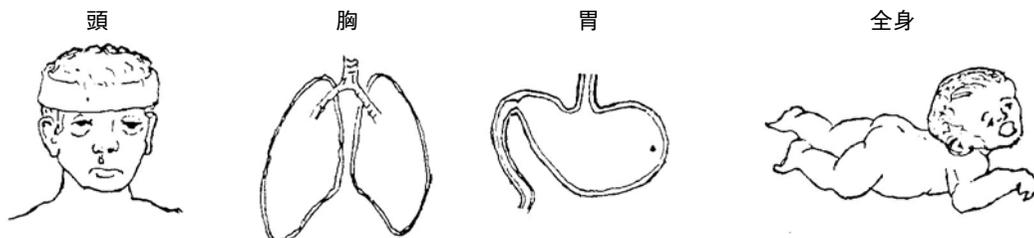
- 泌尿器系（腎臓、膀胱、またはそれらをつなぐ管、p.234を参照）の感染症。
- 消化管の差し込むような腹痛またはガス痛（p.153、下痢の項を参照）。
- 月経痛（p.245を参照）。
- 虫垂炎（p.94を参照）。
- 子宮または卵巣の感染、のう胞、腫瘍（p.243）または子宮外妊娠（p.280を参照）。



スペイン語の病名：ラ コンヘスティオン (うっ血)

地域の病名： _____

メキシコの村人たちは、大きな苦痛をもたらす突然の不調や病気は、なんでもコンヘスティオンと呼ぶ。頭のコンヘスティオン、胸のコンヘスティオン、胃のコンヘスティオン、全身のコンヘスティオンなどである。



コンヘスティオンは、産後に禁じられている食物を食べたり、その一方である種の薬を飲んだりして、＜食養生＞の規則を破った人とか、風邪をひいて咳のある人を襲うといわれている。タブーの食物といっても、普通はまったく害を及ぼさないものであり、ときには体にとって必要でさえある。しかし、多くの人がコンヘスティオンをとっても恐れていて、それらに触れない。

コンヘスティオンと呼ばれているさまざまな病気には、次のものがある。

- 傷んだ食物を食べて起こす食中毒：急激なおう吐を起こし、下痢、差し込むような腹痛、衰弱が続く (p.135 を参照)。
- 重いアレルギー反応：アレルギー体質の人が、ある種の食物 (貝類やカニ、エビ、チョコレートなど) を食べたり、ある種の薬を使ったり、ペニシリン Penicillin を注射したりしたときに起こす。おう吐、下痢、冷や汗、呼吸困難、かゆみのある発疹、激しい苦痛をもたらす (p.166 を参照)。
- 胃または腸の突然の不調：下痢 (p.153)、おう吐 (p.161)、急性腹症 (p.93) を参照。
- 突然の、または重い呼吸困難：喘息 (p.167)、肺炎 (p.171)、何かのどに詰まる (p.79)。
- 発作 (ひきつけ) または麻痺を起こす病気：発作 (p.178)、破傷風 (p.182)、髄膜炎 (p.185)、ポリオ (p.314)、脳卒中 (p.327) を参照。
- 心臓病の発作：たいていは高齢者に起こる (p.325)。

スペイン語の病名：ラティード (脈動)

地域の病名： _____

ラティードはラテンアメリカで、胃のくぼみに起こる脈動または＜躍動＞に対して用いられる名前である。これは、実際には、**大動脈**すなわち心臓から出てくる大血管の脈動である。この脈動は、非常にやせている人や、空腹の人では見て、触れることもできる。ラティードは、栄養失調 (p.112) すなわち飢餓！の症状であることが多い。よい食物を十分に食べることが、唯一の正しい手当てである (p.110 と p.111 を参照)。

■病名の混同が原因の誤解

このページでは、誤解の例を2つ示す。誤解は<CANCER (がん)>とか<LEPROSY (ハンセン病)>という名称が、医療従事者にとっては1種類の病気を意味するのに対して、村人たちにとっては何かほかの違うものを意味しているという場合に起こる。保健ワーカーと話をするときや、この本を用いる場合は、

誤解を避けること。
人々が用いている病名ではなく、
病気の症状や経過から判断する。

スペイン語の病名：カANCEL (CANCER (がん)) 地域の病名：_____

メキシコの村人たちは、皮膚に生じる重度な感染、ことに感染のひどい傷 (p.88) や壊疽 (p.213) には、なんでもカANCEL (がん)という言葉当てて。

現代医学の用語で言うがんは、感染症ではなく、からだのどの部分にでもできる、異常な増殖または腫れ物のことである。警戒すべきがんは、下記の図のものである。

皮膚がん (p.211)



乳がん (p.279)



子宮または卵巣のがん (p.280)



体のどの部分であれ、固く、痛みのない、徐々に大きくなっていく塊は、がんかもしれない。がんは危険な場合が多く、外科手術が必要だろう。

がん気づいた最初の段階で、医学的助けを求める。

スペイン語の病名：レブラ (LEPROSY (ハンセン病)) 地域の病名：_____

メキシコの村人たちは、開放性で体中に広がっていく傷は、なんでもレブラという。これが混乱のもとである。なぜなら、医療従事者は、真正のレブラ (ハンセン病、p.191) にしか、この名称を用いないからである。一般にレブラと呼ばれているただれには次のものがある。

- 膿痂疹 (のうかしん) および他の皮膚感染 (p.202)
- 昆虫のかみ跡、または疥癬 (かいせん) が原因の傷 (p.199)
- 血行不良が原因の慢性の傷または皮膚の潰瘍 (p.213)
- 皮膚がん (p.211)
- あまり一般的ではないが、ハンセン病 (p.191) または皮膚の結核 (p.212)



この子どもは膿痂疹であって、ハンセン病ではない。

■発熱のある異なった病気の中の混同

スペイン語の病名：フィエブレ（熱病）

地域の病名：_____

正確に言うと、**発熱**とは**正常値より高い体温**のことである。しかし、ラテンアメリカでは、高熱の出る多くの病気は、どれも**フィエブレ**（熱病）である。

これらの病気の予防と治療を成功させるには、それぞれの病気を互いに区別する方法を知ることが重要である。

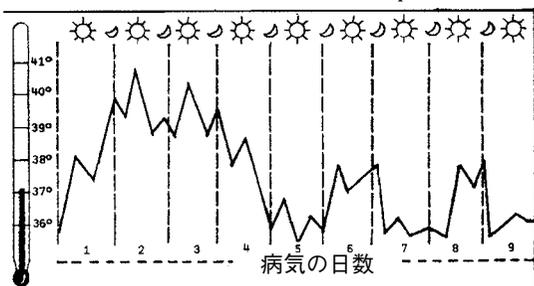


ここでは、発熱が顕著な症状であるような、重要な急性の病気の例をいくつかあげておく。図は、それぞれの病気に特徴的な**発熱の型**（体温の上がり下がり）を示している。

マラリア：(p.186 を参照)

衰弱、寒気、発熱、で始まる。数日間、熱が出たり引いたりする。体温の上昇時に震え（寒気）、下降時に発汗を伴う。その後、2-3日目ごとに数時間の発熱。その他の日は、患者は多少楽に感じる。

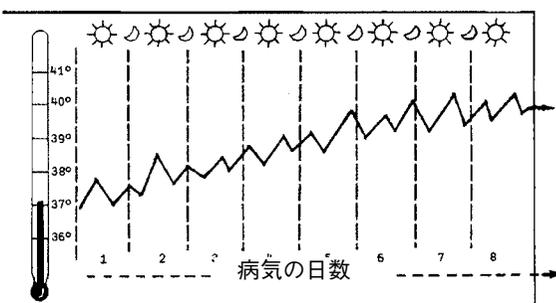
マラリア
- 特徴的な発熱の型
実線は体温が上がってまた下がるのを示している。



腸チフス：(p.188 を参照)

始まりは風邪に似ている。熱は日ごとに徐々に上昇する。脈拍は比較的遅い。ときに下痢と脱水症状を伴う。震え、またはせん妄（一時的な精神錯乱）。患者の容態は極めて重い。

腸チフス
- 特徴的な発熱の型
熱は毎日少しずつ上がっていく。



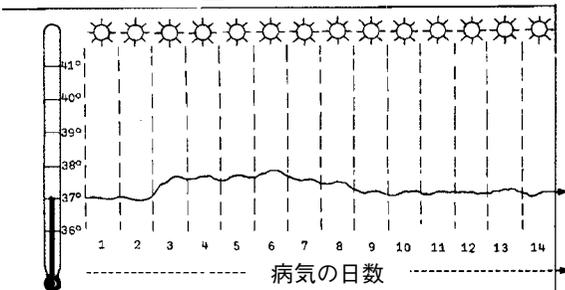
発疹チフス：(p.190 を参照)

腸チフスに似ている。はしかに似た小さな出血のある発疹。

肝炎：(p.172 を参照)

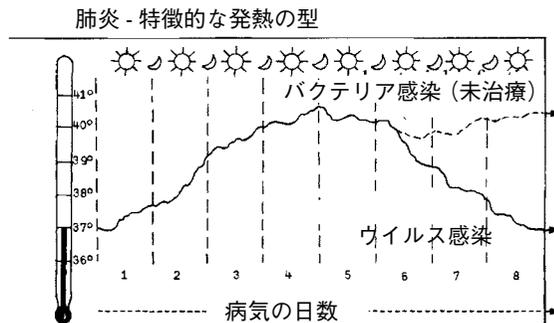
患者は食欲を失う。飲食や喫煙を欲しない。おう吐（吐き気）が強い。眼と皮膚が黄色に、尿はオレンジ色に、大便は白っぽく変色。肝臓が肥大し、圧痛があることがある。微熱。患者は非常に衰弱。

肝炎
- 特徴的な発熱の型
通常、熱はあまり高くない。



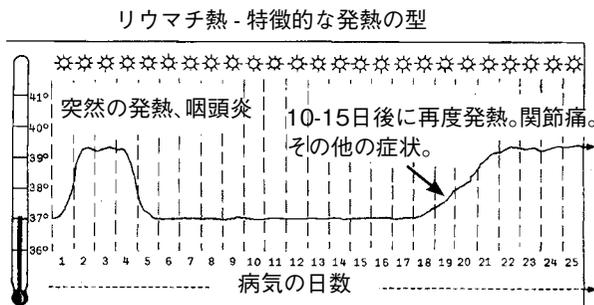
肺炎：(p.171 を参照)

速く浅い呼吸。体温は急速に上昇。緑色、黄色、あるいは血の混じった痰を伴う咳。時に胸に痛み。患者の容態は極めて重い。



リウマチ熱 (p.310 を参照)

子どもと十代に最もよく見られる。関節に痛み。高熱。続いて咽頭炎。息切れを伴う胸の痛み。抑制のきかない腕と脚の動き。

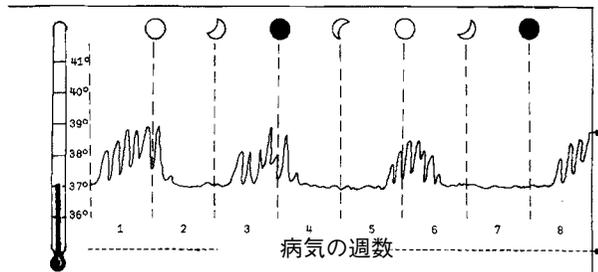


ブルセラ症 (波状熱、マルタ熱)： (p.188 を参照)

倦怠感、頭痛、骨の痛みを伴う。徐々に始まる。ほとんどの場合、夜間の発熱と発汗。熱は数日で引くが、再び発熱。数ヶ月から数年間この状態が続くこともある。

ブルセラ症 - 特徴的な発熱の型

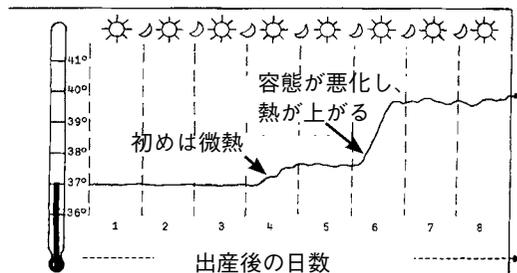
波のような発熱。午後上昇し、夜に下がる。



産褥熱：(p.276 を参照)

出産後1日以上たって始まる。微熱。後に上昇することが多い。腐敗臭のするおりもの。痛み。ときに出血。

産褥熱 - 特徴的な発熱の型



これらの病気はみな、危険なものとなりうる。ここに示したものの他にも、似たような症状や発熱を起こす病気がたくさんある。熱が1ヶ月以上続くか、寝汗をかく場合、HIV/AIDS ウイルスによる恐れがある (p.399 を参照)。可能な場合は、医学的助けを求めること。